

人権に係る調査結果と不登校への取り組み

川崎市立中学校長会
人権教育推進委員会

山本 浩之

I 「生徒の学校生活や人間関係等に関する調査」から

【調査の概要】

- (1) 実施時期は令和2年9月～10月
- (2) 対象は川崎市立中学校52校（2年生）
- (3) 設問総数は25
内訳は学校生活に関する意識 設問8
自己並びに友人関係に関する意識 設問17
- (4) 回答は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」
「どちらかというとならない」「そう思わない」の4択
- (5) 回答総数は1760

「学校生活が楽しい」

「思う」 55.8%

「どちらかといえば思う」 34.6%

「どちらかというと思わない」 7.0%

「思わない」・無答 2.6%

「学校やクラスの仕事にしっかり取り組んでいる」

思う	58.9%	
どちらかといえば思う	36.3%	計95.2%



「学校やクラスの中で役に立っている」

思う	13.6%	
どちらかといえば思う	48.1%	計61.7%

⇒自己有用感が低い中学生像

(集団の中の自己の存在感に自信のない中学生像)

「自分のことが好きだ」			
思う	14.0%		
どちらかといえば思う	35.4%	計	49.4%

「自分にはよいところがある」			
思う	20.9%		
どちらかといえば思う	45.0%	計	65.9%

⇒自己肯定感が高くない中学生像

「信頼できる友だちがいる」

思う75.3% どちらかといえば思う19.0% 計94.3%

「友だちが傷つかないように気をつかっている」

思う57.2% どちらかといえば思う36.4% 計93.6%

「友だちにはいつも親切にしている」

思う66.8% どちらかといえば思う29.9% 計96.7%

⇒友だちを大事にし、気をつかっている中学生像

「友だちは自分のことを信頼してくれている」

思う40.6% どちらかといえば思う47.0% 計87.6%

「友だちには自分の気持ちを素直に話している」

思う44.9% どちらかといえば思う37.4% 計82.3%

⇒友人関係に不安のある中学生像（？）

Ⅱ 学校でできる不登校支援・予防策

1. 不登校生徒の居場所や学習機会の確保
2. 早期発見・早期支援に向けた取り組み
3. 大人（教員）の意識改革

1. 不登校生徒の居場所・学習機会の確保

「スタディルーム」

- 教室に入ることに抵抗感のある生徒を対象
- 月～金の毎日、2、3時間目を開室
- 常に教員2名以上が在室
- 自分のペースと計画に沿って学習
- 一時的混乱や葛藤を回避する効果
- つながりの維持（相談への橋渡し、発展）

2. 早期発見・早期支援に向けた取り組み

- 早期発見のための「目」を持つ体制づくり
- 経験や資質、能力などに依らず、全員ができる方法
- 効果は限られていても、できることから始める



☆ 「学習」と「友人関係」を2大要因（と一旦シンプルに考える）
このどちらかが極端に低い（低くなっている）生徒は
今後、登校渋りなどにつながりやすい（と仮定する）

3. 大人（教員）の意識改革

- 理想像 ex いつも笑顔でいる生徒
 元気なあいさつのできる生徒
- 直線的成長観 ex 昨日できたことは今日もできる
 がんばればもっとできる
- 悪平等意識 ex ○○さんだけに～するのは不公平
 みんな同じ中学生

「いつもがんばっている」

そう思う	27.	1%
どちらかというと思う	46.	8%
どちらかといえば思わない	18.	6%
思わない	7.	4%

(前掲調査より)

「先生に言われてうれしい言葉」

第1位 頑張った

第4位 頑張って・頑張れ

2位は「ありがとう」

3位は「すごい・さすが・
素晴らしい」

「先生に言われていやな言葉」

第3位 頑張れ

1位は「ばか・あほ」

2位は「こんなこともでき
ないの」

(「平成30年度人権教育推進に係る調査」より)

1 次的支援

すべての生徒を対象として、
全教職員が日常的に行う支援。



2 次的支援

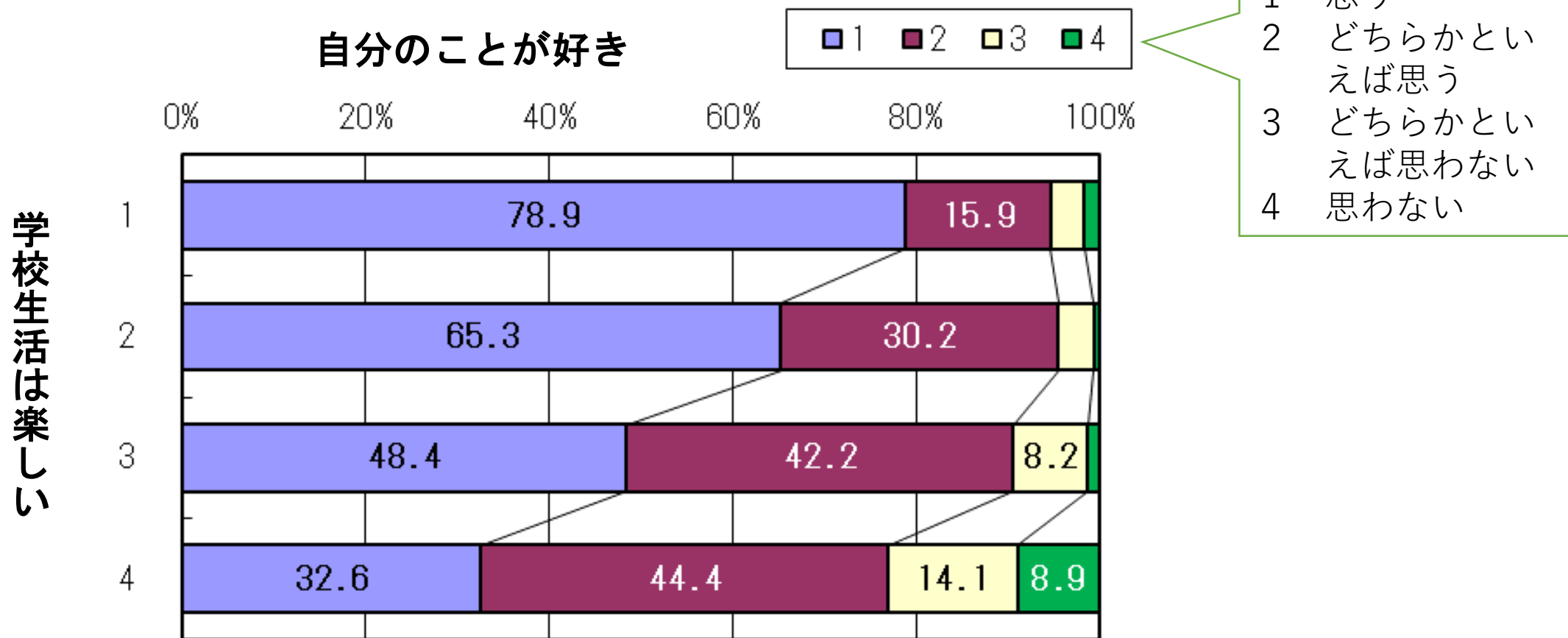
配慮を要する一部の生徒の問題状況の早期発見を行い、
生徒の問題が大きくなって生徒の成長を妨害すること
のないようにする支援。

3 次的支援

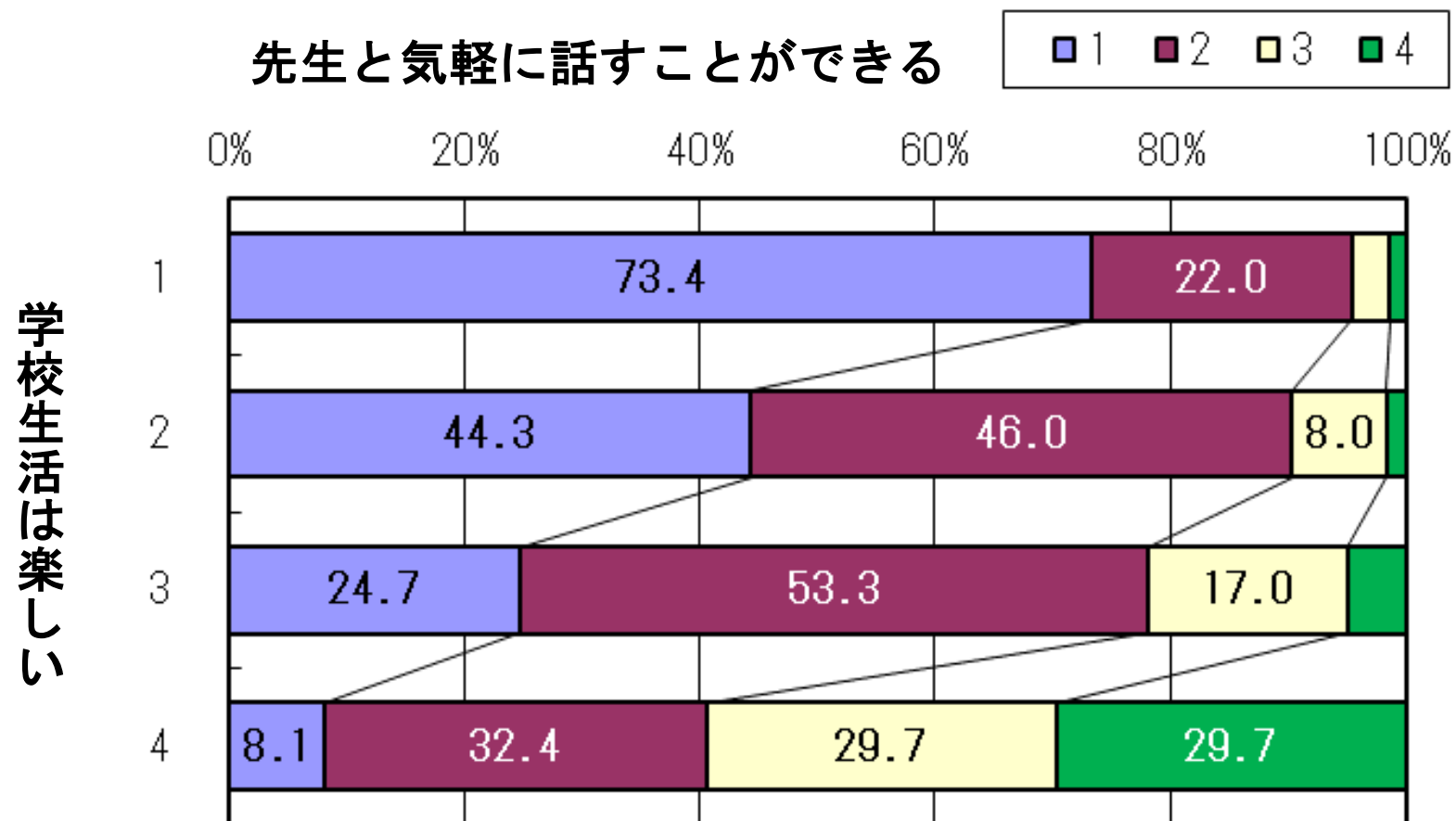
特別なニーズのある特定の生徒に対する個別の支援。

Ⅲ 再び調査結果から（クロス集計）

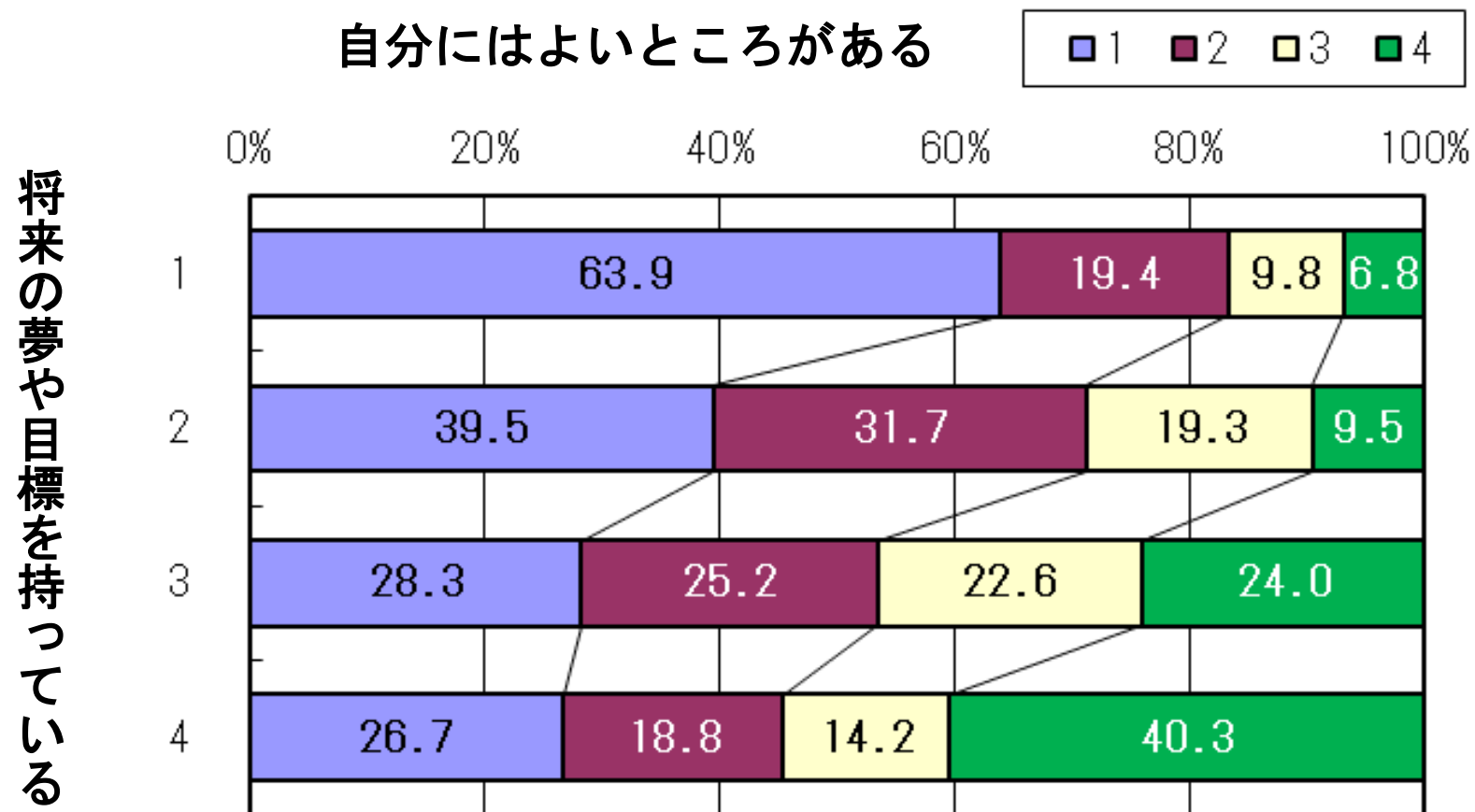
学校生活が楽しいと思っている生徒ほど、自分のことが好きだと感じている



学校生活が楽しいと思っている生徒ほど先生と気軽に話することができると思っている



将来の夢や目標を持っていると思っている生徒ほど、
自分にはよいところがある



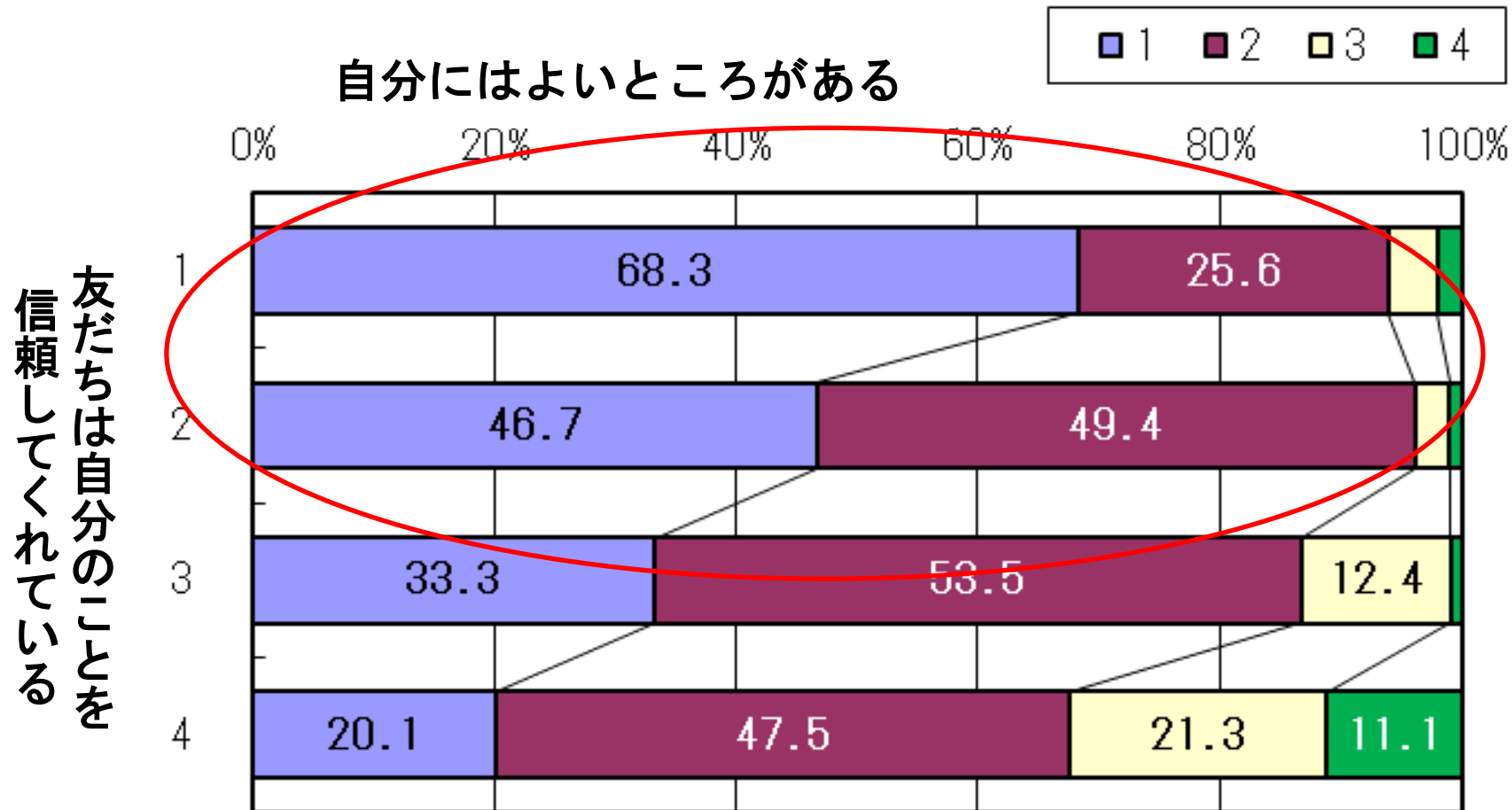
〈その他のクロス集計〉

◇ 「友だちは自分のことを信頼してくれている」と思っている生徒ほど「自分のことが好きだ」と思っている

◇ 「友だちは自分のことを信頼してくれている」と思っている生徒ほど「自分にはよいところがある」と思っている

⇒ 自己肯定感は友人関係に支えられている

「友だちは自分のことを信頼してくれている」と思っている生徒ほど「自分のことが好きだ」と思っている



「友だちは自分のことを信頼してくれている」と思っている生徒ほど「自分にはよいところがある」と思っている

